

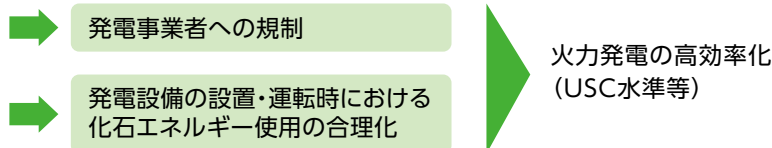
# Environment

## 気候変動

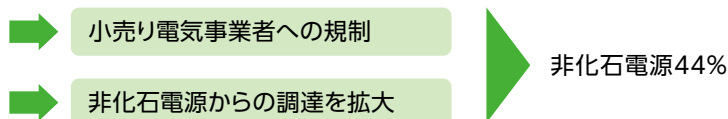
当社グループは、原子力や再生可能エネルギーの活用、火力発電の高効率化などにより、電気事業全体のCO<sub>2</sub>削減目標達成に向け最大限努力していきます。

中でも、火力の高効率化やCO<sub>2</sub>を排出しない電源構成については、実効性、透明性を確保するために国が定めた「省エネ法」及び「エネルギー供給構造高度化法」における2030年の目標達成に向け、適切に対応していきます。

**省エネ法** 工場などエネルギーを消費する者(事業所等)のエネルギー使用の合理化



**エネルギー供給構造高度化法** エネルギーを供給する事業者(小売)による選択



2030年時点での  
CO<sub>2</sub>排出係数は  
0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWh相当<sup>※1</sup>

※1：電気事業における低炭素社会実行計画<sup>※2</sup>の目標値

※2：2015年に、電気事業連合会関係12社と新電力有志で策定した電力業界として自主的に取り組んでいく地球温暖化対策の中長期的な計画

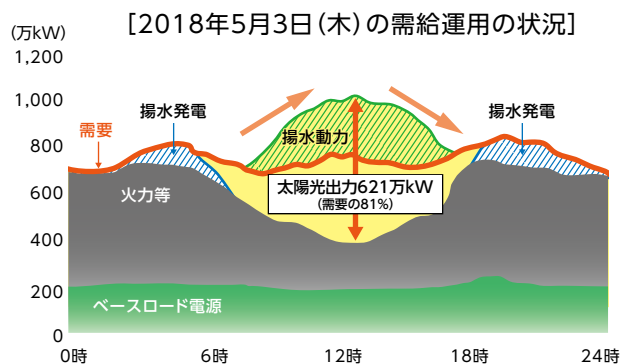
## 火力発電の熱効率向上

2017年度の火力総合熱効率は、新大分発電所1号系列で2009年から順次進めていた高効率ガスタービンへの更新工事(全6台)が完了したことに加え、熱効率の高い火力発電所の高稼働に努めたことにより41.8%(発電端)と高水準を維持しました。

## 再生可能エネルギーの最大限の受入れ

太陽光や風力など、天候や時間によって発電量が大きく変動する再生可能エネルギーを、自社火力や揚水発電と最適に組み合わせることで、最大限の受入れに努めています。

2017年度の発電受電電力量に占める再生可能エネルギーの割合は約20%になりました。



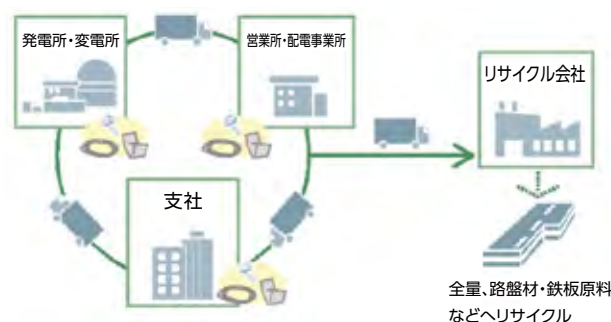
## 資源利用

### 産業廃棄物のほぼ100%をリサイクル

2017年度に発生した87万トンの産業廃棄物のほぼ100%をリサイクルし、資源の有効活用を図っています。

全社的、恒常的な産業廃棄物は、対象品目を定め、複数事業所で一括回収後、全量リサイクルする「共同回収」を行っています。

2018年度からは、コンクリートくずを対象品目に追加し、輸送面での更なる環境負荷低減に努めています。



## 水使用

### 発電用水の管理

発電所で使用する工業用水は、水利権の範囲内で河川等から取水するとともに、発電所起動停止時や通常運転中の循環利用などにより、発電用水として新たに補給される水量の抑制に努めています。

## 生物多様性

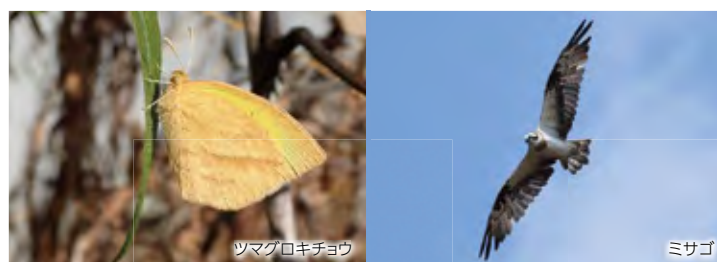
### 社有林における生物多様性調査の実施

水力発電の安定した水源確保を目的として、4,447haの社有林を適切に維持管理し、水源涵養やCO<sub>2</sub>の吸収など、森林の持つ公益的機能の維持・向上に努めています。

この社有林がより生物多様性に富んだ環境となることを目指し、グループ会社の九州林産(株)が、現地調査に着手しました。



社有林(大分県由布市)



社有林で確認された大分県の準絶滅危惧種